

教え子を再び 戦場に送るな

2面・障害児学校部総会
・非正規センター 前川喜平 講演



発行所
静岡県高等学校障害児学校教職員組合
静岡市葵区駿府町1-12
高教組新聞編集委員会
http://www.s-koukyousho.jp/
e-Mail info@s-koukyousho.jp
TEL (054) 254-6900
FAX (054) 254-0814

高教組しんぶんは組合費とカンパによって発行されており、全教職員に配布しています

政府の「論点整理案」を 人事院が検討

定年延長問題

政府は17年6月に閣議決定した公務労働者の定年延長に関して、制度設計をすすめています。18年2月16日には「論点整理(案)」をまとめ、人事院に案の検討を求めました。人事院の検討結果は、人事院勧告時に示されることが想定され、政府はそれを受けて、制度設計を行い、19年の通常国会に法案を提出して、成立をめざすと見られます。

雇用と年金の接続

定年延長に関しては、13年4月からの年金支給開始年齢引き上げにともない人事院が定年年齢を65歳まで段階的に引き上げるのが適当とする「意見の申し出」(11年9月)を行いました。政府は採用せず「再任用の義務化」で対応してきた経緯があります。

独自の定数措置が必要

21年度からの延長が2〜3年ごととなれば、65歳までの間、無年金期間が生じます。再任用希望者が増え続けることは避けられず、希望しても再任用されない可能性は高まります。加えて児童、生徒減による自然減や学校統廃合で教職員定数が

引き下げられ、新採用も抑えられる事態も想定されます。政府・文科省の責任で、定年延長と再任用に係わる独自の教職員定数措置を行うことが不可欠です。

60歳以上の給与水準

論点整理では「民間給与水準との均衡」「総人件費の増加抑制の必要性」を踏まえ、60歳以上の給与水準を一定程度引き下げとしています。年齢を理由とした賃金引き下げは不当です。特に教職員の場合60歳までと60歳以降で職務内容が変わるわけがなく、現行のフルタイム再任用の場合、労働条件、とくに賃金面で厳然とした格差があります。年収ベースでは2級最高号俸の6割に届き

定年延長にともなう要求ととりくみ

制度設計には不透明な部分もあり、人事院の検討結果、報告を待つことになりませんが、全教、高教組は重要課題として、以下の要求をもとに、署名、中央行動、人事院交渉などのとりくみを強めていきます。

核兵器のない世界をめざして 18平和行進

5月6日、東京夢の島を出発した18原水爆禁止平和行進は、5月19日に神奈川から静岡に引き継

がれ、県内行進は5月31日まで13日間にわたって行われました。高教組も、分會・本部から参加、OBも多数行進しました。昨年7月7日に採択された「核兵器禁止条約」や北朝鮮の核兵器廃棄が国際的な関心事となつてい

主張

人事評価結果を勤勉手当に反映させる「新たな人事評価制度」の試行が始まり、各学校ではシートの記入、校長面談などが始まっています。

「教職員人事評価制度」は06年度の研究協力校試行、07、08年度の全校試行を経て本格実施されました。この間高教組は導入に反対し、アンケート調査を実施してきました。これまでのアンケート

結果は、制度の目的である「組織の活性化」「資質の向上」に関して、役に立ったとする意見は少数で、「公正な評価」についても否定意見が多数を占めています。若干

制度への不信は 払拭できるのか

浮かび上がっています。今年度の春闘教育長交渉で県教育委員会は「評価結果が適切に給与に反映できるのか試行を通じた検証が重要」と回答し、教育長は「地方公務員法の趣旨に沿

ても「できた」とする回答は23%にとどまっています。10年以上の制度の積み上げがありながら、教職員の制度に対する不信、不安は払拭されていません。若干

り隔たり」との危惧があり、被評価者からの不信、不満の声は払拭されていません。10年に及ぶ本格実施のなかでも解消されない制度の問題点や矛盾がこの1年間の試行で解決できるのでしょうか。制度に信頼性がなければその効果は望めないばかりか逆に作用することになります。県教育委員会には試行の過程で率直な声、意見をくみ上げ、十分な検証を行い、問題点等を明らかにするとともに、19年度本格実施にこたわらないことを強く求めます。



愛知に全教旗を引き継ぐ
横村雄司特別執行委員 (左)

視座

十代の頃、ファミコンでゲームをしました。夢中になって、小遣いを貯め、カセットを買ったのです

▼相談室で生徒と共通の話題を持つと、スマホでゲームを始めました。遊び方を生徒に教わりながら、ある生徒は「このゲームを何年もやってるんだとか。ファミコン世代には信じられないこと。カセット時代、ゲームは完成品。一方、スマホゲームはほぼ完成品つまり未完成、ネットにつながりアップデートされ続け、ますますおもしろくなつていくんです。これが何年も飽きない理由」▼教職員は年度当初、数値目標まで掲げ、年間計画を立てなくてはいけません。まだ生徒の顔も見えないうちに、そして、計画が実行できたかどうか評価されます。いわゆるPDCAサイクル、計画(Plan)実行(Do)、点検(Check)改善(Action)。ま、誰もがやっていることに頭文字をつけただけですが、計画の実行が評価の対象なら、実現可能で容易な目標を立てればいいだけのこと。ま、そんなのは教育とは呼べませんが▼スマホゲームは、見切り発車、アップデートしながら進みます。これが今時の仕事術。完全な計画など目指していません。不完全ながらも、前へ前へ。行き当たりばったりじゃなく、臨機応変に。あ、年間計画、出さなきゃ。メ切過ぎたし。

静岡高教組障害児学校部会 総会・学習会

障がいのある子どもと青年の性と生

伊藤修毅(なおき)さん日本福祉大学準教授

6月16日に障害児学校部の総会と学習会を開催しました。総会では、分会長に加え多くの会員や新しい顔ぶれが増え、活発な意見交換がなされました。午後の学習会には、組合員だけでなく38人が参加し、熱心に学びあいました。

意見や要求を幅広く吸い上げて

総会では、アンケート等を中心に幅広く要求を吸い上げ、教育環境の整備や働きやすい制度の実現を一つずつ着実に実現することや、仲間作りと組合拡大を進めていくことを方針として確認しました。夏前にはアンケートを配布、集計し、県教委との交渉の資料にできるような準備を進めます。

今年には特に、介助員さん、看護師さん、添乗員さんなど、少人数の職員の見いも取り上げるよう準備を進めます。午後には、質疑応答では、「中、高等学校では、必要以上なスキップを取らないという考えが主流だがどうしたらいいのか」などの支援学校でも課題となっている貴重な質問が寄せられました。伊藤先生



からは、「その子の発達に必要な保障はない」と。課題はおとなの側。地道に職場で学びあい、話し合うしかない」とアトバイスされました。否定や抑圧中心の歪んだ性の指導は、加害者を育むことにつながると背筋がひんやりする話もあり、「おおらかな性教育のススメ」の重要性を噛みしめた学習会でした。

前川喜平さんが講演

非正規ではたらくなかまの全国交流集会

月100時間の残業も合法とする「働き方改革一括法案」の成立が狙われている中、「非正規ではたらくなかまの全国交流集会」が6月9、10日に都内で開催され、全国から600人が参加し、熱心な討論、報告が行われました。



1日目の全体会では前文部事務次官の前川喜平さんが「教育と貧困」をテーマに記念講演を行いました。前川さんは講演の最初に「もり・かけ」問題にも触れ、安倍政権により、いかに行政が歪められ、私物化されたか、その経緯や文書の改ざんなど官僚の権力への「付度」の実態などを明らかにし、「これだけ嘘やごまかし、強弁がずっと、怒りを通り越しあきれしてしまふ」と時に笑いを誘いながら安倍政権を批判しました。

伊藤修毅さん講演要旨

北海道の特別支援学校に勤務している時に性的な事件がおき、性教育が必要だとあらためて痛感し、性について学びなおすことで自分自身も変わることができた。大学院で学びながら、現在の日本福祉大学准教授に。子どもも発達学部で特別支援学校教諭免許の教職課程を担当している。



「性の権利宣言」は世界の常識

1999年世界性科学者会議の「性の権利宣言」では、触れ合うことへの欲求などが満たされることが社会生活上の幸福には必要不可欠だと、「快楽」としても肯定。2009年にはユネスコなどが「国際セクシャリティ教育ガイダンス」をまとめて性教育を勧めたが、日本は翻訳もせず無視してきた。「結婚するまでだめ」という純潔教育のため、無防備なセックスで出産する高校生の割合が有

セクシャリティの発達にも道筋がある

スキンシップによって2歳くらいで愛着形成はできるが、8、10歳になることもある。遅れてきた愛着形成期として、ふれあいを教育的に保障することが

必要だ。1メートルとか腕一本分など人との距離を指導され、近づきすぎることがダメなことだと誤学習したために、バス通勤が得意にならなかった人もいる。不用意に接触されると不快だと思う感覚も、気持ちいいという経験なしには育たず、性の強要・搾取・虐待に対して、NO!と言える力にならない。禁止、抑圧は、逆に性犯罪の加害者に近づけることにもなる。

十分な性教育を受けてこなかったことによるタブー意識から脱却し、自らのセクシャリティを言語化、客観化して正面から受け止め、子どもたちと一緒に学びなおしましょう。今からでも始めることはできる。

国の責任で普通教育を保障せよ 教育の無償化に関して「就学支援金」や「給付制奨学金の創設」など一定の前進は図られているがまだ不十分、行政の責任は大きいとした上で、憲法でうたう「義務教育」ということが国の責任をい

2日目は13の分科会に分かれて、各地、各職場の運動を交流し、多に語り、学びあいました。集会終了後は雨模様の中、サウンドアモをおこない、「非正規の待遇改善」最低賃金大幅引き上げなど大きくアピールしました。

続・映画の中の教師たち ⑥

「書道ガールズ!! 私たちの甲子園」 (監督:猪股隆一/2010公開)



製紙業の町・愛媛県四国中央市で2008年から開催されている「書道パフォーマンス甲子園」。映画は、県立三島高校書道部の実話をベースに、若者たちの成長を描く。 部員同士バラバラで新入部員も逃げ出す惨憺たる状況の書道部。そこに赴任した若い理科教師(金子ノブアキ)は「ムリ!オレには教える資格ないから」。ヒマさえあれば携帯ゲーム機ばかり。部長の里子(成海璃子)は、書道教室を営む厳格な父親のもとでどこかつまらなそうに書道に取り組んでいる。それを看破され初めは反発するが、顧問が新入部員募集のために書道パフォーマンスを行ったことかから、物語は大きく動き出す。結果的に里子たちは、自分の町を元気にするため「書道パフォーマンス甲子園」の開催を思い立つ。 この映画のテーマは「再生」である。不景気に沈む町。皆で和気あいあいと書を楽しんでいたあの頃の書道部。 いじめの体験や母親の病氣、進路などそれぞれの悩み。そして顧問にとっては、書道家を目指しながら入賞を考えるあまりいつしか書の楽しさと人生を見失った自分自身の「再生」。映画のクライマックス。大会本番では部員たちが「手紙 拝啓 十五の君へ」をバツクに幾多の困難を乗り越え、全力で書き上げる。その文字こそ「再生」。部員たちの晴れやかな表情。大会が終わり、顧問は風のように去って行く。旅立つ駅で相変わらずゲームをするが、やり終えると居合わせた駅員にゲーム機を差し出す。「もう俺には必要ないんで」。彼は部員たちのおかげで人生から逃げることをやめ、ただ書くだけで楽しかった頃の自分を取り戻したのである。そして部員たちもまた、彼のおかげで高校時代のかけがえのない思い出を得て、仲間を取り戻した。 教師と生徒は本来、立場の違いを超えてこんな風に大切なことを教え合える関係だったのではないか。「ブラック部活」とは無縁な部活の姿がここにある。(執行委員 遠藤 覚)